
電波の有効利用促進のための安全な無線LANの利用に
関する普及啓発事業（平成28年度）

公衆無線LAN利用に係る調査結果

総務省 情報セキュリティ対策室

調査の概要

項目	内容	
調査目的・背景	<p>総務省では2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催を見据えて、観光立国を推進する観点から、関係省庁、関係団体とも協力しつつ、公衆無線LANの整備促進に取り組んでいる。公衆無線LANは外出先等で高速な回線を利用できる点で便利である一方、盗聴、なりすましといったセキュリティ上の懸念もあり、正しい知識を持って利用する必要がある。</p> <p>総務省では、公衆無線LANの利用状況や情報セキュリティに係る意識及び対策状況について調査を実施し、利用者の意識や行動の経年変化を把握する。</p>	
調査の視点	<p>主に以下3つの視点を明らかにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 普段公衆無線LANを利用している日本人観光客における公衆無線LANの利用状況等の経年比較 ● 日本人観光客(公衆無線LAN利用ユーザと自宅のみWi-Fi利用ユーザ)における情報セキュリティ意識、対策状況の移動 ● 日本人全体(公衆無線LAN利用ユーザと自宅のみWi-Fi利用ユーザ)における公衆無線サービスの利用意向、望まれる情報セキュリティ対策 	
調査方法	Webアンケートによる調査	
調査時期	平成29年2月22日～28日	
調査対象	<p><共通条件> スマートフォンまたはタブレット端末を利用して無線LANを日常的に利用している18歳以上の日本人調査においては、18～19歳は20歳代、70歳以上は60歳代に含めて分析を行っている。</p>	
	<p><公衆無線LAN利用者> 公衆無線LANを日常的に利用している人608人</p>	<p><自宅のみでの無線LAN利用者> 自宅でのみ無線LANを日常的に利用している人555人</p>
	<p><うち観光客> 上記のうち、首都圏以外に居住し、最近1年以内に首都圏を観光で訪れ、スマートフォンまたはタブレット端末を利用してインターネット接続をした経験のある人288人</p>	<p><うち観光客> 上記のうち、首都圏以外に居住し、最近1年以内に首都圏を観光で訪れ、スマートフォンまたはタブレット端末を利用してインターネット接続をした経験のある人238人</p>
調査事項 (設問)	公衆無線LANサービスの利用状況、満足度、利用に当たっての情報収集の有無、公衆無線LAN利用に係る脅威の理解度、情報セキュリティ対策状況、公衆無線LANサービスの改善点、今後利用したい通信手段 等	

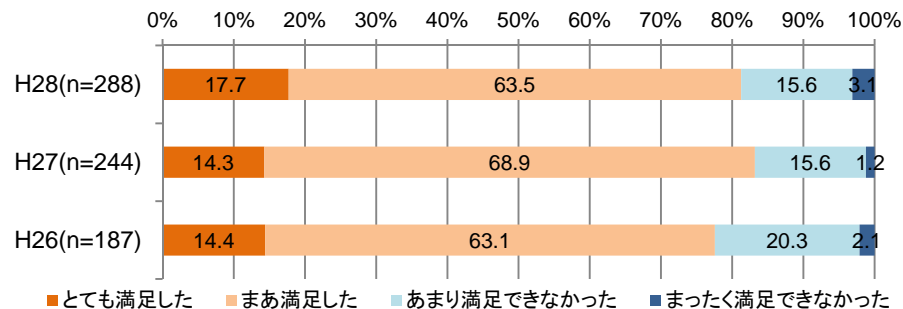
<調査結果の表記に係る注意事項>

- ・ アクセスポイントは「AP」と記載しています。 ・ ユーザIDは「ID」、ログインパスワードは「PW」と記載しています。
- ・ 設問によっては「公衆無線LAN」を「Wi-Fi」と表記している場合があります。 ・ 「SA」は単一回答(Single Answer)、「MA」は複数回答(Multi Answer)を表しています。

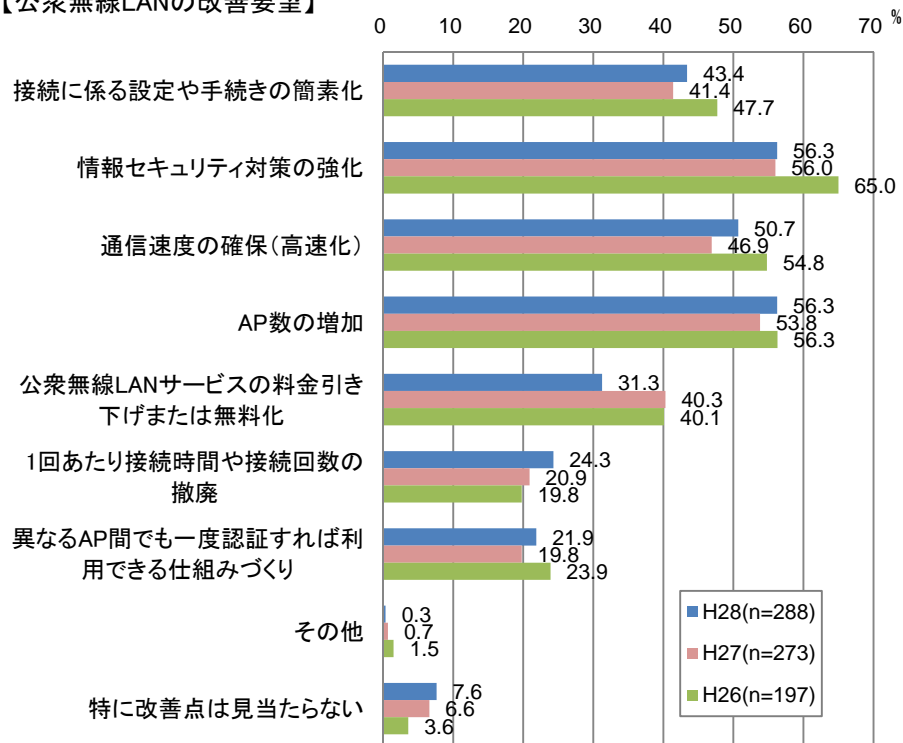
調査結果ポイント(1) 日本人観光客の間で公衆無線LANの利用が定着

- 公衆無線LANの利用環境が整いつつあり、ユーザもおおむね満足している。

【外出先での公衆無線LANの満足度】

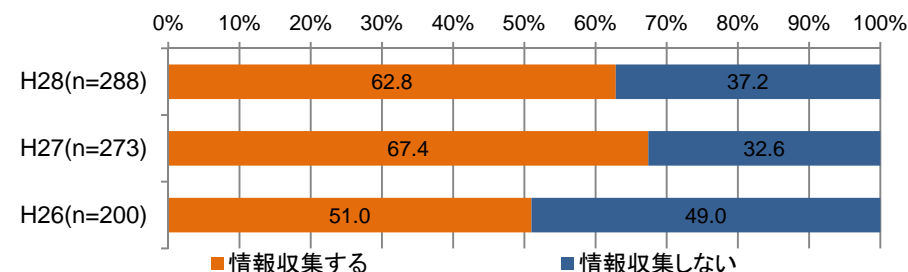


【公衆無線LANの改善要望】

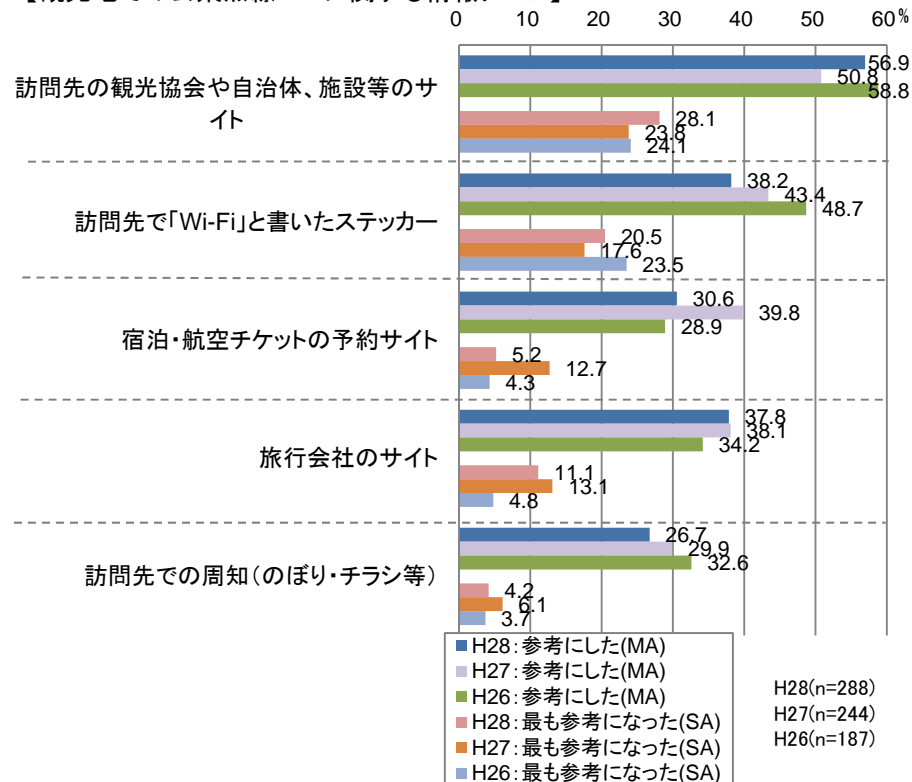


- 観光客にとって、観光先での公衆無線LAN利用の可否は要チェック情報。出発前に観光情報ルートで入手している。

【観光に際しての公衆無線LANに関する情報収集】



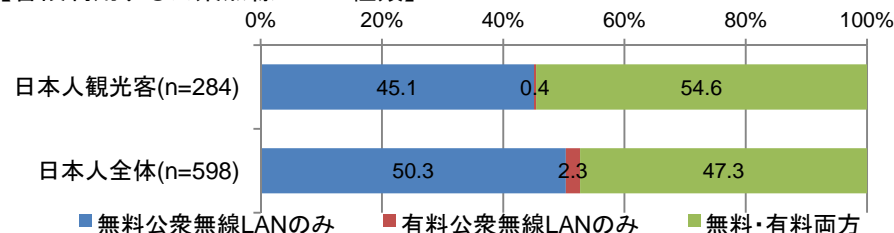
【観光地での公衆無線LANに関する情報ソース】



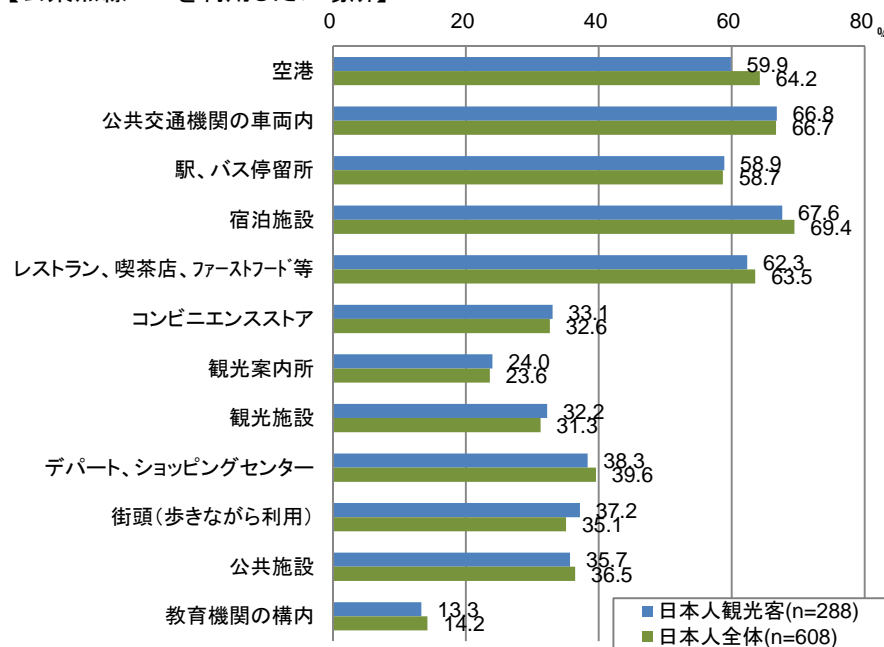
調査結果ポイント(2) 日本人観光客と日本人全体の傾向はほぼ一致

● 日本人観光客と日本人全体とでは、公衆無線LANの利用実態も、情報セキュリティに対する意識行動もほとんど差がない。

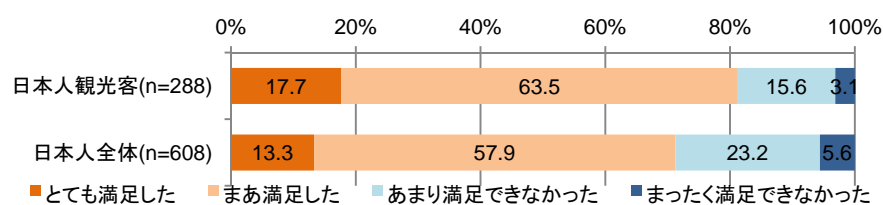
【普段利用する公衆無線LANの種類】



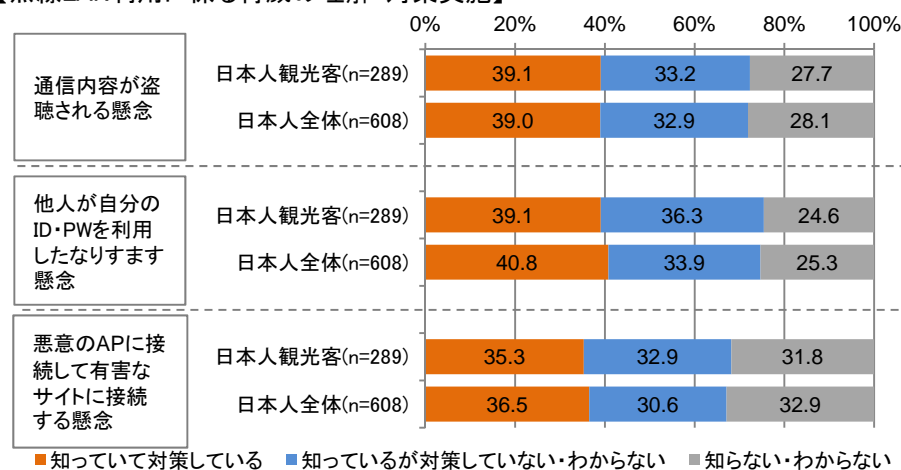
【公衆無線LANを利用したい場所】



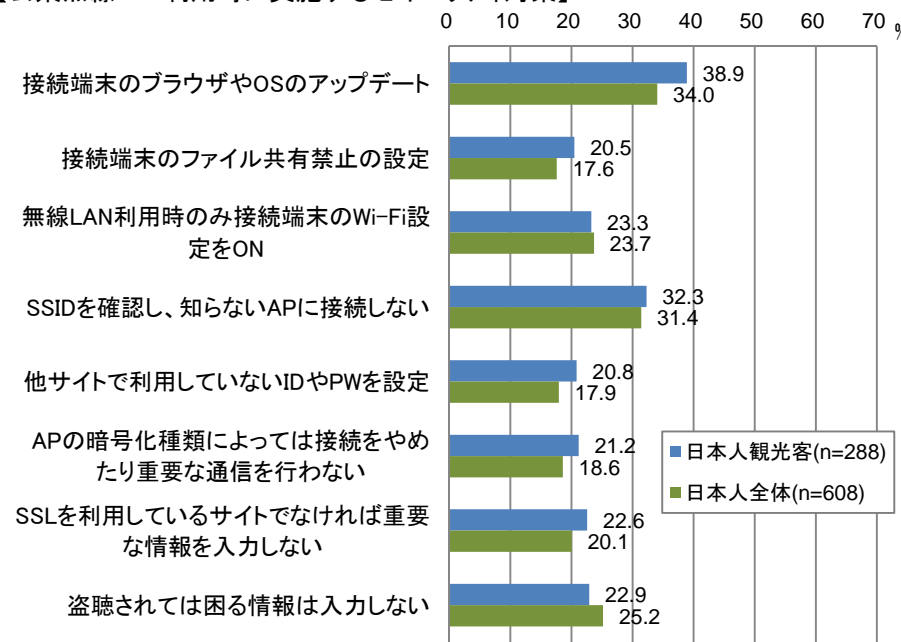
【公衆無線LANの利用満足度】



【無線LAN利用に係る脅威の理解・対策実施】



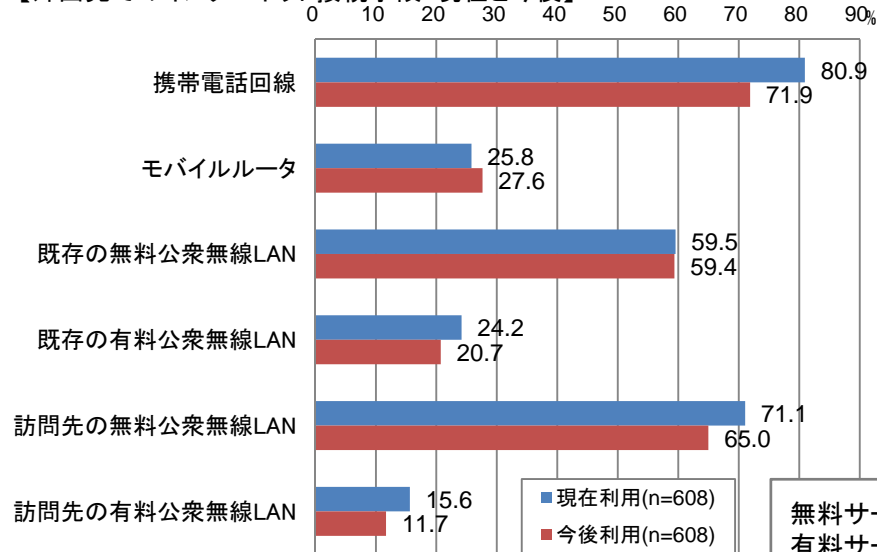
【公衆無線LAN利用時に実施するセキュリティ対策】



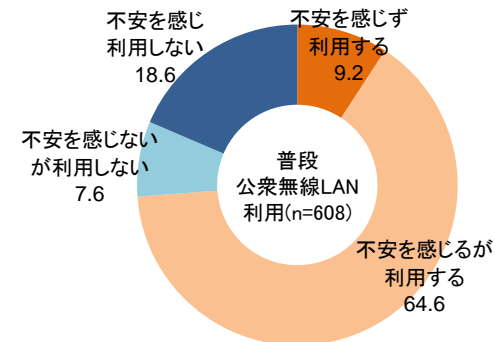
調査結果ポイント (3) 不安を残しつつ今後も公衆無線LANを利用

- 携帯電話回線と無料の公衆無線LANは今後も引き続き利用するとの意向。
- 無料サービスのみの利用者は、無線LANの脅威対策に係る理解度が低く、引き続き周知・啓発活動が必要。
- 今後の公衆無線LANサービス選択の決め手となるのは、「セキュリティ」と「品質(速度)」。

【外出先でのインターネット接続手段：現在と今後】



【公衆無線LANの情報セキュリティの考え方】

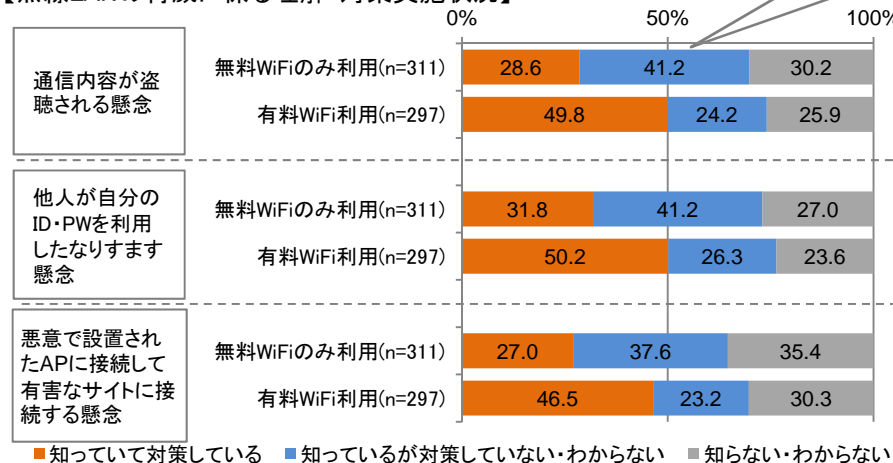


【公衆無線LANサービスの選択条件】(コンジョイント分析)

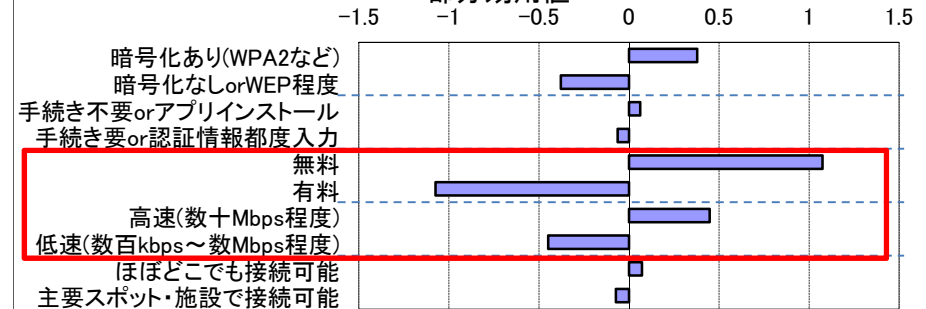
	セキュリティ	利用に係る手続き・認証	料金	速度	エリア
サービスA	②強度弱	②認証不要	②無料	①高速	①どこでも
サービスB	②強度弱	②認証不要	②無料	②低速	②主要場所
サービスC	②強度弱	①都度認証	①有料	①高速	①どこでも
サービスD	②強度弱	①都度認証	①有料	②低速	②主要場所
サービスE	①強度高	②認証不要	①有料	①高速	②主要場所
サービスF	①強度高	②認証不要	①有料	②低速	①どこでも
サービスG	①強度高	①都度認証	②無料	①高速	②主要場所
サービスH	①強度高	①都度認証	②無料	②低速	①どこでも

無料サービスのみの利用者は、有料サービス利用者より、理解度も対策実施度も劣る

【無線LANの脅威に係る理解・対策実施状況】



部分効用値



調査結果ポイント(4) 無線LANの脅威への対策の実施状況は改善

- 無線LANの脅威を理解し、対策を行う利用者が増えている。
- 一方で、無線LANの脅威を知らない利用者も増加。

【無線LANの脅威に係る理解・対策実施状況(公衆無線LAN利用者)】

